

愛甘水（あいかんすい）

登録番号：第2352号

登録年月日：平成2年8月4日

登録者：猪飼孝志（愛知県安城市橋目
北茶屋浦52番地）

育成者：猪飼孝志

来歴：「長寿」と「多摩」の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢はやや弱いが、太さ、節間長とも中程度の枝が多く発生する。成葉は卵形で小さく、幼葉は赤褐色をしている。花芽は短果枝では小さい。えき花芽の着生は中程度で、短果枝の着生はやや多い。誘引すればえき花芽はよく着くが、2年枝、3年枝に大果で高品質の果実が結実するので結果枝として短果枝を中心に用いるほうがよい。

開花期は「長寿」と同時期で、花弁の形は円で色は白である。「幸水」とは交雑不適合性であるが、「豊水」とは適合性を示す。

収穫期は育成地で7月下旬から8月上旬で「幸水」より10日程度早い早生の赤ナシである。

■果実特性

果実の大きさは300～350gで果形は扁円で、ていあの高さはやや浅く広さは広い。有てい果が多少混在するが問題になるほどではない。果皮色は黄赤褐色で果点の大きさは中とその密度はやや密である。

果肉は黄白色で、硬さおよび粗密は中で「幸水」よりやや硬いが、ほどよくしまった肉質は良好である。また、糖度は13度程度と甘味が強く、酸味は少ない。果汁はやや多めで、かすかに香気があり食味は良く市場性は高い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病、黒星病に対しては非常に強く、胴枯病、輪紋病の発生もほとんどないため、通常の防除で十分である。むしろ、適期に防除すれば防除回数を2～3回減らすことができる。

樹勢がやや弱いため、開花期から5月にかけて主枝、亜主枝の背面や側枝、予備枝の基部の上面から発生した徒長枝となりそうな新芽をかき、枝の先端を強く伸長させ樹勢の維持に努めるようにする。

本品種は小玉果では食味が極端に劣るため、大玉生産に心がける。特に、長果枝は玉が不揃いになるので、6月下旬に太さ7～8mm以下の新梢を基部の3～5葉が残るようにせん除し、花芽を着生させ翌年の短果枝として利用すると良い。

ユズ肌果の発生がみられるため、乾燥しやすい園地では深耕して有機物を投入し、根群域を深くすると良い。また、梅雨明け後、乾燥が激しい場合には灌水に心がける。湿害を受けやすい園地では明渠や暗渠を掘るなど排水対策をして根の活力を低下させないようにする必要がある。台木をマンシュウマメナシ台にするのも一手法である。その他、心腐れ、裂果、蜜症の発生はほとんどなく問題になることはない。果実の貯蔵性はやや短だが、この時期のナシとしては長いほうである。

■地域適応性

既成品種が経済的に栽培されている地域では栽培が可能と思われる。特に、関東以西の早生品種の栽培地帯で、この品種の特徴が十分に生かされると思われる。

（坂野 満）